

令和 7 年

兵庫県

鳥獣害アンケート 結果報告

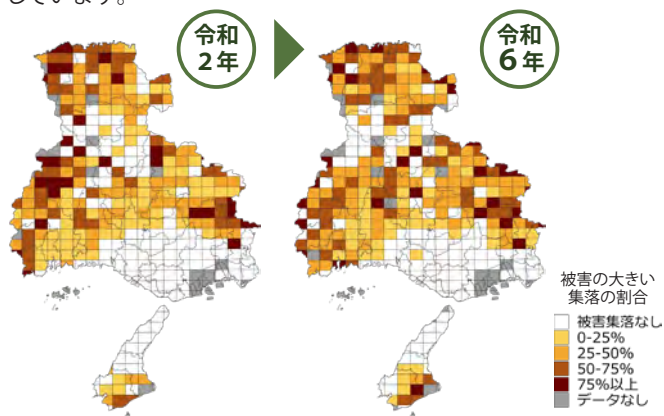
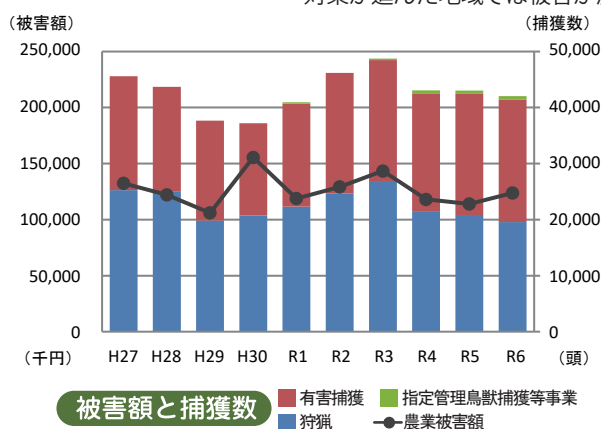


毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

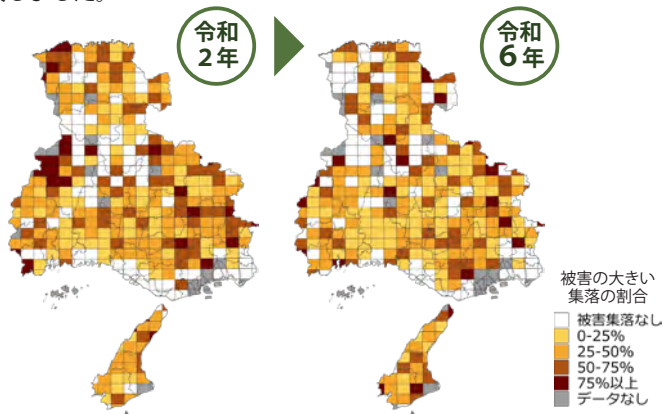
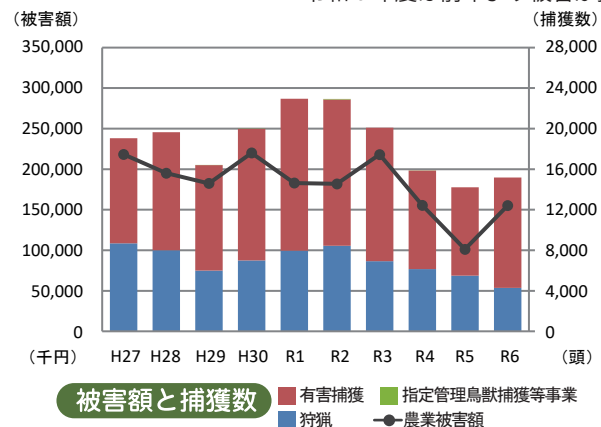
ニホンジカ

平成 25 年度以降、年間およそ 4 万頭の捕獲を維持しています。対策が進んだ地域では被害が減少しています。



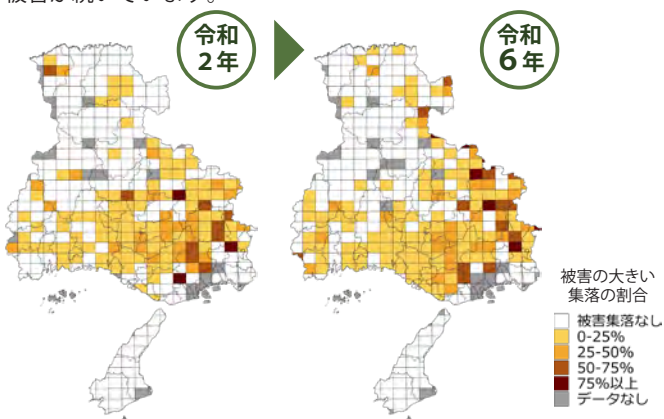
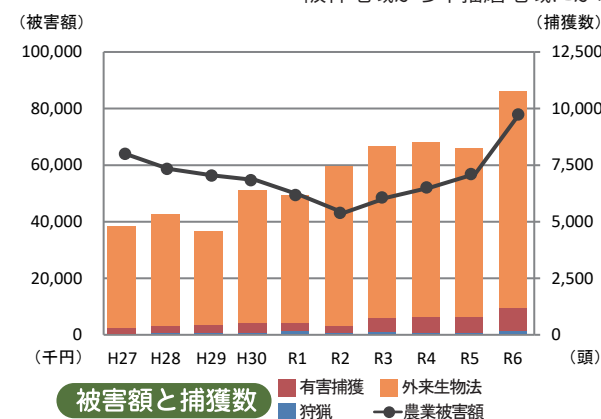
イノシシ

県全体の被害額は令和 3 年以降減少傾向にありましたが、令和 6 年度は前年より被害が拡大しました。



アライグマ

令和 2 年以降捕獲数・被害額は増加傾向です。阪神地域から中播磨地域にかけて被害が続いています。



獣害対策の基本的な考え方

獣害対策に特効薬はありません。総合的に対策を行い、集落を野生動物にとって居心地が悪く、餌が少ない場所にするのが、獣害対策の基本となります。兵庫県では、市町と連携し、**集落住民が主体となる**獣害対策を支援しています。



食べさせない

1. 誘引物の除去（集落の餌資源を無くす）
2. 柵で囲う（侵入させない）



集落住民による 獣害対策のススメ



居心地を悪くする

3. 環境改善（潜み場、林縁部の見通し改善）
4. 追い払う（人に対する警戒心を高める）

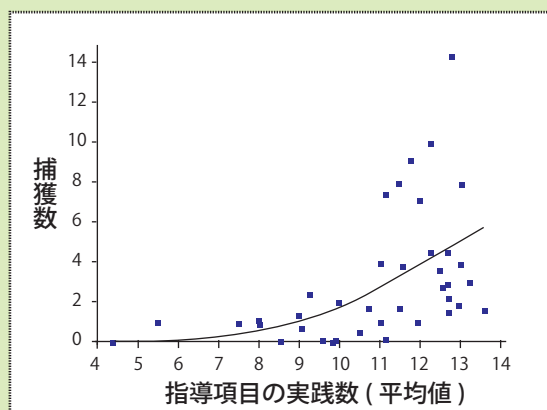
捕獲する

5. 有害捕獲（出没する加害個体を捕獲する）



「獣害に強い集落づくり」に取り組みませんか？

兵庫県では、**集落住民が主体となって**行う防護柵等の管理やシカ、イノシシ、アライグマの捕獲活動に対して、獣害対策アドバイザーを派遣して ICT 技術を組み合わせた獣害対策支援を行う「スマート獣害対策モデル育成事業」を実施しています。



効果的な方法により捕獲数 **UP↑**



みんなで力を合わせて**獣害対策**を!!

詳細は、最寄りの市町又は県民局・県民センター（農林（水産）振興事務所等）にお問い合わせください。

